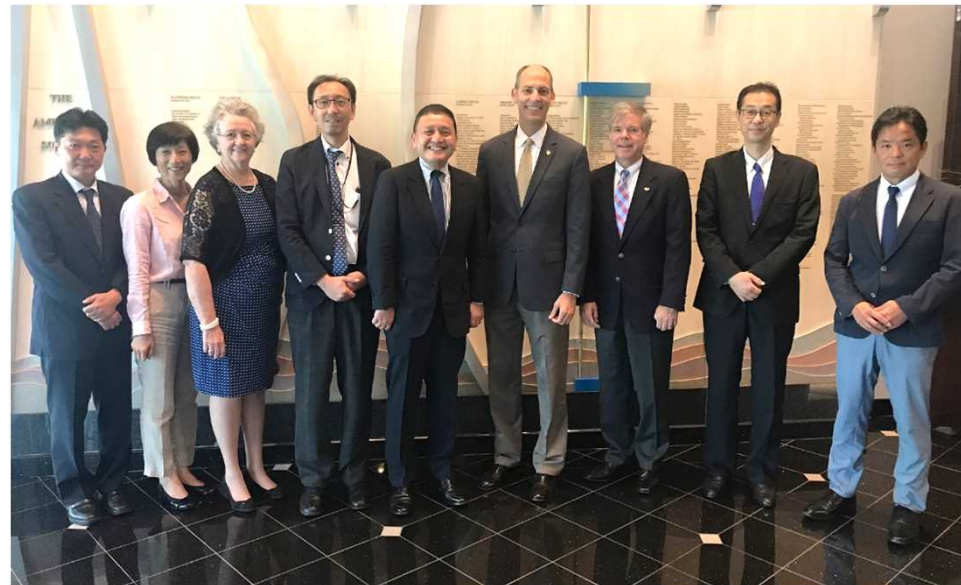


2017年7月 米国出張報告



2017年8月

米国出張概要

- 出張目的：
 - インフラ維持管理、特にインフラの老朽化に対する方針、取組み（費用含）、行政や産業界への働きかけ、一般社会への貢献等について情報、意見交換を行う。
 - 関係者との人的ネットワークを形成し、継続的な情報交換を図る。
- 出張期間：
 - 2017年7月23日（日）～7月27日（木）
- 訪問先：
 - アメリカ土木学会（ASCE：American Society of Civil Engineers）本部
 - 運輸省（DOT：Department of Transportation）
 - DOT本部
 - Federal Highway Administration (FHWA)
 - Turner-Fairbank Highway Research Center (TFHRC)

参加者と行程

- 参加者

氏名	所属
塚田 幸広	土木学会専務理事
奥村 康博	国交省総合政策局 海外プロジェクト推進課長
中村 光	名古屋大学大学院教授
布施 光啓	国際建設技術協会 研究第一部部長
湯浅 岳史	土木学会 会員・企画課 (パシフィックコンサルタンツ(株))
澁谷 有希子	土木学会 国際センター

- 出張行程・訪問先

日	行程・訪問先
7月23日 (日)	成田国際空港発、ダレス国際空港着
7月24日 (月)	ASCEミーティング@ASCE本部
7月25日 (火)	DOT・FHWAミーティング & TFHRC視察
7月26日 (水)	ダレス国際空港発
7月27日 (木)	成田国際空港着

ASCEミーティング 概要

- 日時：7/24（月） 13：00～14：30
- 場所：ASCE本部
- ASCE側出席者
 - Mr. Thomas W. Smith, ASCE Executive Director
 - Ms. Meggan Maughan-Brown, Director of International Relations
 - Mr. Casey Dinges, Ms. Becky Moylan, Ms. Angie Lander
- 日本側出席者：奥村、塚田、中村、布施、湯浅、澁谷



インフラ健康診断の説明



意見交換

ASCEミーティング 要旨

- インフラ老朽化は、日本とアメリカの共通課題である。
- ASCE、JSCEとも、AIなど最新技術を研究するInstitutesを持っている。ASCEとJSCE間で合致する委員会を調べ、委員会ベースの意見情報交換を行うことを検討する。
- ASCEのレポートカードとJSCEのインフラ健康診断を比較してみると、ともにインフラの老朽化、維持管理という課題の解決に取り組んでいることが伺える。アメリカ、日本が相互に協力してこの課題に取り組むことは意義あると思われるため、FHWAに2国間の意見交換を提案する。
- インフラ維持管理への投資がない場合、後に大きな負担となって戻ってくる。社会の経済活動が鈍ると同時に、年間\$3400の税金として各家庭が負担することになる。言い換えれば、将来へ投資することにより、将来の支出を大きく抑えることができる（ASCEは、“Failure to act”と称し、エコノミストを雇って交通、河川、エネルギー、港湾について評価した）。
- 毎日のように多数のメディアでレポートカードが引用されている。一般市民への周知や社会への影響など、効果は大きい。
- 今年のASCEの大会では、レポートカード、特に“Game Changers”に焦点を当てたセッションを設ける予定である。
- JSCE会長は、アメリカのインフラ整備に関する政策、ASCEの取組みに関心を持っており、ASCEとの意見交換を希望している。日本でシンポジウムを開催する際、ASCEの会長、またはTom専務理事に参加を検討いただく。

FHWAミーティング 概要

- 日時：7/25（火） 9：00～10：30
- 場所：FHWA会議室
- FHWA側出席者
 - Stephen E. Keren, Leader, Global Technology Exchange Team
 - Stephen J. Gaj, Leader, Asset Management Team
 - George L. Bouza, International Travel & Visitor Program Coordination
 - 平岩氏（MLITより出向）
- 日本側出席者：奥村、塚田、布施、湯浅、澁谷



FHWA説明



意見交換

FHWAミーティング 要旨

- 1999年にアセットマネジメントに関する組織を設置し、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、UKなどの取り組みを研究してきた。
- 2012年、法令により各州に対して、NHS（National Highway System）に関する、**橋梁と舗装を最低限含む維持管理・更新計画（TAMP：Transportation Asset Management Plan）の策定を義務付けている。**
- 計画策定のポイントは、**長期間（最低10年）に渡り、リスクを考慮しLCCを最小化する投資計画**を作成することである。
- FHWAは必要な法・規制の整備と、Life-cycle Planning, Risk Management, Financing Planningに関するガイドラインを整備し、各州の計画策定を支援している。
- 各州のDOTは2018年4月末までにFHWAに対して第1次TAMPを提出しなければならない。
- 2年毎にアセットマネジメントに関する全国会議が開催されているが、次回（2018年春）は、舗装・橋梁に加え、まだアセットマネジメントについては法整備されていない上下水道に関する議論される予定である。
- 老朽化対策は長期的課題であり、政策面だけではなく、関連技術へのICT技術の活用など技術的な側面も含めて、**今後も引き続きこのような対話の場を設けることで合意した。**

DOTミーティング 概要

- 日時：7/25（火） 12：30～13：00
- 場所：DOT会議室
- DOT側出席者
 - Frederick Eberhart, Deputy Director
 - Christopher D. Clement, Senior Advisor, Office of International Transportation and Trade
- 在米日本大使館 森参事官、FHWA 平岩氏（MLITより出向）
- 日本側出席者：奥村、塚田、布施、湯浅、澁谷



DOTとの意見交換



DOT前にて

DOTミーティング 要旨

- DOT：日本は質の高いインフラ整備を強く提唱しているが、その大切さについて6月のG7交通大臣会合（イタリア）における議論で学んだ。是非、連携を図りたい。
- DOT：LCC重視、ICT技術、ドローンの活用等は米国にとっても非常に重要であり、各州で様々な取り組みがなされている
- DOT：日米企業がコンソーシアムを組成した例を知っているか。両国企業を比較すると、相互補完できるものなのか、競合するものなのか？
- MLIT：今まで組成事例を聞いたことはないが、日米企業が組んでうまくいくかどうかは分野による。日本企業はアジアでの実績・ノウハウを有しており、米企業はCMに強い、互いの強みを生かせればいい仕事ができる。
- DOT：とにかく協力を継続することが大切である。

TFHRC視察 概要

- 日時：7/25（火） 14：00～16：15
- 場所：Turner-Fairbank Highway Research Center（TFHRC）
- アジェンダ：
 - 1400-1415：Welcome Overview
 - 1415-1600：Laboratory Tour
 - Nondestructive Evaluation Laboratory
 - Coatings and Corrosion Laboratory
 - Accelerated Pavement Testing Facility
 - 1605-1615：Closing Remarks/Q&As



NDE Labでの説明



Accelerated Pavement Testing Facility